

新緑の「田立の滝」を満喫

「田立の滝親子ハイキングを実施」

【南木曽支署】五月二十一日、木曾郡南木曾町田立国有林の「田立の滝」において南木曾町・南木曾支署主催で「親子で歩く新緑の田立の滝ハイキング」を開催し、南木曾町内及び愛知県名古屋市熱田区緑の少年団など約五十名が参加しました。

この行事は、国際森林年テーマ「森を歩く」にちなみ、南木曾町内の景勝地の散策のイベント実施を南木曾町に呼びかけ、田立の滝入山の一般開放を機に多くの人に見ていただくことと合同で企画したものです。

当日は、初夏にふさわしい陽気の中、参加者は「田立の滝」主瀑の天河滝までのハイキングや天河滝周辺での川遊びなどを楽しみ、終了後は家族で記念植樹及



田立の滝を満喫

び木工体験等を行い、新緑の田立の滝の自然を満喫しました。

参加者からは「田立の滝に初めて来た。滝の落差がすごかった」「山に入ってこういった滝があったことにびっくりした」等の感想も出されました。

四月に入山規制を解除して以降、田立の滝には多くの観光客が訪れ、当日も県内外から多くの方が訪れていました。

今後も関係機関との連携を大切にしなが、地域と一体となって、国有林を活用したイベント等の実施や支署の取り組みについてPR活動を進めていくこととしています。

分収造林契約地 地元住民らによる

国際森林年記念植樹

「郡上市高鷲町鮎立中山国有林」

【岐阜支署】五月十四日（土）、中部森林管理局と日本森林林業振興会名古屋支部



植樹する参加者

（土川哲夫支部長）との間で今春国際森林年を記念して協定された分収造林契約地で、高鷲小学校児童ほか地元の小中学生や岐阜市のボーイスカウト親子、市内外の林業関係者ら百二十名の参加をいただき、植樹祭が開催されました。

植樹祭は、振興会と岐阜森林管理署が主催し、本年は国際森林年であることから国際森林年関連イベントの一環として計画しました。

開催に当たっては、郡上市役所や高鷲林業グループ等地域の林業関係者と準備を進め、「たかすふるさと植樹祭」と銘打ち、多彩なメニューで行われました。まず、白鳥森林事務所の寺田基幹作業職員による模範伐倒作業では、スギ立木が見事に伐倒されると子供たちから大きな歓声があがりました。

植樹会場では、内藤森林官から植樹方法の説明を受け、ヒノキ苗、五百本を植

え付けました。

昼食をはさみ、高鷲民謡保存会の歌と三味線が山々にこだまする中、踊りを楽しんだり、安江森林ふれあい係長によるミニ森林教室で森の働きを学び、バードコールを作製するなどしました。

快晴に恵まれ、地元との一体感を再認識できた一日となりました。

各地からのたより

北信州植樹祭開催される

【北信支署】六月四日、北信州植樹祭が山ノ内町よませどんぐりの森公園で、北信地区森林祭実行委員会（北信林業振興会、地方事務所、森林管理署、当該市町村、森林組合等）の主催で開催されました。

当日は、夏を思わせるような晴天の中、一般参加者やみどりの少年団、各種関係者の約四百名の参加がありました。地元山ノ内町長の歓迎挨拶後、来賓の篠原農林水産副大臣から、「日本は長年の植樹活動により、自国で木材の自給自足が行える程に森林資源が充実している。今後、国産材の利用を進めていきたい。」と祝辞がありました。

式典後は、公園周辺にヤマボウシ、コブシ、ヤマブキ等を植栽し、昼食では、



ヤマブキを植えるみどりの少年団

西小学校のみどりの少年団の活動発表があり、地元特産のリンゴを餌に飼育された「エコ養トン」汁が振る舞われ、食も木材も地産地消が大切と感じながら行事を終了しました。

地元・各種団体と

保全活動の継続を

〜阿寺溪谷景観整備作業を実施〜

〔南木曾支署〕 五月十一日、大桑村の阿寺国有林阿寺溪谷において、大桑村をはじめ、大桑村議会、阿寺溪谷の整備活動を行っている阿寺ふれあいエコクラブなど三十四名が参加し、阿寺溪谷の景観整備作業を行いました。

この行事は、平成二十一年六月に林木育種センターでさし木増殖をした希少種



雨の中、作業する参加者

ハナノキの里帰りをきっかけに始まり、今年度は林道端から溪谷を見えるように、沿線の雑木の除去作業を行いました。

開会にあたり、相馬支署長から「森林整備等を進めていきながら地域とともに阿寺の山を守っていききたい」、大桑村長からは「阿寺溪谷の注目度は高まっている。大勢の方々を訪れてもらえる癒しの場所としたい」と挨拶がありました。当日は雨が降りしきる中にも関わらず、参加者は慣れた手つきで雑木の伐倒や枝落とし作業に取り組んでいました。

整備後は、林道から阿寺溪谷が安全に見やすくなり、夏場に向け、これから訪れる観光客の目を楽しませてくれることが期待されます。

今後も地元・各種団体と協働し、作業を継続していく中から保全・管理を進めていくこととしています。

「木曾郡植樹祭」

〜植樹と森林整備に汗を流す〜

〔南木曾支署〕 五月二十八日、木曾郡大桑村阿寺原の「フォレスパ木曾」周辺において木曾地方事務所、大桑村、南木曾支署他主催で木曾郡植樹祭が開催され、愛知県北名古屋市市民をはじめ、木曾郡内外から約五百六十名が参加し、ハナモモ四百五十本の植樹と周辺のヒノキ林の除伐作業に汗を流しました。

式典では、大桑小学校みどりの少年団からみどりの宣言がされ、続いて大桑小学校五年生によるヒノキ間伐材を、有効利用し自作した木製コカリナ演奏、また、北名古屋市師勝少年少女合唱団の合唱が行われ、参加者は美しい音色と歌声



ハナモモを植樹

に聴き入っていました。

植樹の終了後、地元小中学生や下流域の住民など参加希望者を対象としたシイタケ植菌作業の体験と阿寺溪谷の散策が行われました。

参加者からは「斜面に植えるのが大変だったけど楽しかった」「立派に育ってきれいな花を咲かせてほしい」等といった感想も出されました。

この行事は毎年、木曾郡下各町村及び地域関係団体との共同で開催され、今年度は、木曾地方事務所、大桑村、木曾南部森林組合及び木曾森林管理署、木曾ふれあいセンター及び当支署等が共同で植樹祭の準備や当日の運営を行ってきました。

今後も、地域と協働し継続していく中から、このような取組を地域はもとより下流域に情報発信していきたいと考えています。

全国植樹祭五周年記念大会

〔岐阜署〕 五月二十一日に下呂市萩原町四美の皇樹の杜にて全国植樹祭五周年記念大会が開催されました。

これは、平成十八年に「生きた森づくりを全国に発信する」をテーマに開催された全国植樹祭から五年を経過した同日に、これまでの取組を振り返るとともに、これからの森林づくりについて決意

を新たにしようと開催されたものです。
 当日は古田肇岐阜県知事による記念植樹などのイベントが行われたほか、五年前に司会を務められた女優の竹下景子さんも来場し、大会に花を添えています。



完成した作品を前に



木とのふれあいの場を提供

た。

岐阜森林管理署も木工クラフトのブースを出展し、来場者へ木とのふれあいの場を提供しました。最初は見本に倣って作り始めた子供たちでしたが、次第にオリジナリティ溢れる作品となりその出来映えには目を見張るばかりでした。

今後も各種イベントに参加し、木工クラフトなどの取組を通じて国有林のPRに努めていきたいと思えます。

シリーズ 現場最前線

新たな気持ちで

「木曽署福島班」福島班のある木曽福島森林事務所は、木曽谷の中心地に位置する木曽町福島にあり、管轄する区域は、木曽町のうち旧木曽福島町、旧日義村、旧三岳村の国有林約七、七〇〇畝です。

現場は、木曽町福島の里山である城山国有林（標高八〇〇メートル）から、木曽駒ヶ岳（標高二、九五六メートル）、御嶽山（標高三、〇六二メートル）と変化に富んだ山々であると同時に、木曽森林管理署管内では、珍しく小面積の国有林が十二箇所点在しています。

福島班は、平成二十二年度末の定年退職によって一名体制になるところでしたが、班体制の見直しにより、別々の森林



福島班の皆さん

事務所から新たに四名が加わり、平成二十三年度から五名体制となって出発することができました。

新しい班体制になって三ヶ月余りが経ちますが、前年度まで別々の森林事務所です仕事をしていたとは思えないほど、日頃から班長を中心にするらしいチームワークで、獣害対策、境界管理、森林保全管理等の作業を安全管理に気を配りながら取り組んでおり、笑い声が絶えない明るい職場で活気に溢れています。

また、福島班では以前から毎朝ラジオ体操を行ったあと現場に向かっており、新しい班体制になっても伝統を受け継ぎ、みんながいつでも元気に足取りも軽く現場に向かっていきます。

人のういき

中部森林管理局人事

六月四日付

▽職務復帰（育児休業終了）総務部総務課付（愛知森林事務所）（局総務部総務課（名古屋事務所）） 遠山 良江

六月十六日付

▽森林整備部治山課付（局森林整備部治山課保安林係長） 稲川 年秋

行事・会議等の予定

◎安全週間

7月1日～ 局署等

◎准フォレスター研修開講式

7月4日 下呂市

◎フォレスターズシンポジウム

7月8日 下呂市

◎名古屋シティ・フォレスター事業

7月8日 東濃署管内

7月30日 富山署管内

◎「いのちの森づくり」植樹祭

7月10日 愛知所管内

◎高山植物等保護対策協議会

7月11日 長野市

◎林業専用道技術者研修開講式

7月11日 下呂市



中部森林管理局の森林・林業の再生に向けた人材育成の取組みについて

戦後造成された人工林を中心に資源が充実する中、一昨年十二月に十年後の木材自給率を五十%以上とすることを目的とした「森林・林業再生プラン」が農林水産省において策定され、これを具現化するための検討委員会が設けられ、昨年十一月に「森林・林業の再生に向けた改革の姿」がとりまとめられました。この中では、森林計画制度の見直し、低コスト化に向けた路網整備等の加速化、国産材の需要拡大と効率的な加工・流通体制の確立等に加え、持続的な森林経営を実現するために市町村を技術面から支援・指導するフォレストラー（当面は准フォレストラー）等の人材育成の重要性が位置づけられ、国有林に対しては研修フィールドや技術を活用した人材育成の推進が求められています。

これらの要請にこたえるために、中部森林管理局では、森林技術センターが中心となり准フォレストラーの

育成を目的とした研修や、適切な路網を作設するための技術者を育成する林業専用道技術者研修を国有林のフィールドを用いて七月から開始する予定です。これらの研修には、都道府県職員のみならず中部森林管理局の職員も参加し、技術的な支援ができる者を育成し、市町村が市町村森林整備計画を作成する際にその要請等に応じて准フォレストラーを配置し、支援を実施することとしております。

◎スケジュール

7月4日 准フォレストラー研修開講式

7月8日 フォレストラーズシンポジウム

7月11日 林道専用道技術者研修開講式

准フォレストラー研修

・第一グループ
7月4日～8日

9月26日～30日
・第二グループ
7月18日～22日
10月24日～28日
・第三グループ

林業専用道技術者研修

・第一回
7月11日～13日
・第二回
8月8日～10日
・第三回
10月3日～5日
・第四回
10月31日～11月2日

◎主な研修の内容

准フォレストラー研修

- ・森林・林業再生プランの概要
- ・准フォレストラーの役割
- ・市町村森林整備計画の概要
- ・森林施業の集約化（提案型集約化施業）
- ・ゾーニングと森林施業の考え方（望ましい森林の姿、施業方法）

- ・路網と作業システム
- ・森林施業の実行管理演習
- ・森林施業検討会
- ・仮想集約化団地の現地踏査
- ・市町村森林整備計画実習（ゾーニング）

林業専用道のイメージ（木曾署：白川支線林道）



- ・森林整備企画実習（路網整備等効率的な施業構想の策定）
- ・市町村森林整備計画（案）によるワークシヨップ
- ・森林施業における労働安全
- ・木材流通・販売
- ・森林経営計画の概要
- ・森林経営計画作成演習
- ・森林専用道作設指針等の概要
- ・森林施業、作業システムに関する基礎知識と配慮すべき留意点
- ・林業専用道の調査設計
- ・林業作設技術



旗拳天満宮 (平家追討旗拳の地)

木曾義仲公ゆかりの地

「木曾署」木曾義仲（幼名・駒王丸）は、約八百年前の平安時代末期の武將で、河内源氏の一門、源義賢の次男で一一五四年に誕生した。源頼朝・義経とは従兄弟にあたる。

ふう けい き こう
風景紀行
信濃国木曾谷・叢
 74
 木曾森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

父義賢は、叔父との対立によって討たれ、当時二歳の駒王丸にも命の危機が迫るが、畠山重能らの計らいで信濃国木曾谷（現在の長野県木曾郡木曾町）に逃れ、中原兼遠の庇護の下養育され十三歳で元服、木曾次郎義仲と名乗った。

一一八〇年四月、後白河法皇の第三皇子、以仁王が全国に平氏打倒を命じ、八月に伊豆で頼朝が、九月に信濃国で義仲が挙兵し、各地を転戦した後、一一八三年五月富山・石川県境にある俱利伽羅峠で、平維盛と激突圧勝し、七月末平家一門は都落ちし、義仲は比叡山にいた後白河法皇を保護して京に入った。

都の人々は傲慢な平家を追い出してくれた英雄として義仲軍を喝采で迎え、東方（木曾）から日の出の勢いで上洛した義仲を朝日将軍（旭将軍）と讃えた。

一一八四年一月、従四位下、征東大將軍に任ぜられる（義仲が自ら任命させたとも言われている）が、同月源義経などが率いる鎌倉軍に討たれ、近江国粟津（滋賀県大津市）で最期を迎えた。

義仲は「信濃の国」（長野県歌）に、県出身者の一人として詠われている。また、義仲が育った木曾郡日義村（平成十七年十一月一日から木曾町日義となり消滅）は、「朝日将軍義仲」に由来し明治七年に命名された地名である。

（参考文献：「木曾義仲のすべて」鈴木彰・樋口州男・松井吉昭編著）



林昌寺 (中原兼遠の菩提寺)



德音寺 (一族の菩提寺)



義仲館 (資料館)

県歌 信濃の国 浅井洸作詞（一部）
 旭将軍義仲も 仁科の五郎信盛も 春台
 太宰先生も 象山佐久間先生も 皆此国
 の人にして 文武の誉たぐいなく 山と
 聳えて世に仰ぎ 川と流れて名は尽きず

◆義仲館へのアクセス方法

「公共交通機関」

JR中央本線宮ノ越駅下車徒歩十分

「自家用車」

中央自動車道中津川IC↷国道十九号
 線經由約一時間四十分、長野自動車道
 塩尻IC↷国道十九号線經由約四十分